

東方偈 (往觀偈) (一)

とうぼうげ とうぼうしよぶつこく とうぼうしよぶつこく
 東方諸仏国 其数如恒沙
 ひーどーぼーさつしゆー とうごんむりようかく
 彼土菩薩衆 往觀無量覺
 なんぎいほくしーゆい じようげーやくぶーねん
 南西北四維 上下亦復然
 ひーどーぼーさつしゆー とうごんむりようかく
 彼土菩薩衆 往觀無量覺
 いっさいしよーぼーさつ かくさいてんみようけー
 一切諸菩薩 各齋天妙華
 ほうこうむーげーえー くーようむーりようかく
 宝香無価衣 供養無量覺
 げんねんそうてんがく ちようほつわーげーおん
 咸然奏天樂 暢発和雅音
 かーたんさいしよーそん ぐーようむーりようかく
 歌歎最勝尊 供養無量覺
 くーだつじんずうえー ゆうにゆうじんぼうもん
 究達神通慧 遊入深法門
 ぐーそくくーどくぞう みようちーむーとうりん
 具足功德蔵 妙智無等倫
 えーにちしよーせーけん しようじよーししよーうん
 慧日照世間 消除生死雲
 くーぎようにようさんそう けいしゆーむーじようそん
 恭敬繞三市 稽首無上尊

東方偈 (往觀偈) (二)

とうぼうげ けんびーごんじようどー けんびーごんじようどー
 東方偈 見彼嚴浄土 見彼嚴浄土
 いんぼつむーじようしん がんがーこくやくねん
 因発無上心 願我國亦然
 おうじーむーりようそん どうようほつごんしよう
 応時無量尊 動容発欣笑
 くーすいむーしゆーこう へんじようじつぼうこく
 口出無数光 徧照十方国
 えーこういーにようしん さんそうじゆうちようにゆう
 廻光围绕身 三市從頂入
 いっさいてんにんしゆー ゆーやくかいかんぎー
 一切天人衆 踊躍皆歡喜
 だいじーかんぜーおん しようぶくけいしゆーもん
 大士觀世音 整服稽首問
 びやくぶつがーえんしよう ゆいねんがんぜつちー
 白仏何縁笑 唯然願說意
 ぼんじようゆうらいしん ほとんちようみようこう
 梵声猶雷震 八音暢妙響
 とうじゆーぼーさつぎー こんせつにんたいちよう
 当授菩薩記 今說仁諦聽
 じつぼうらいししようじー ごーしつちーひーがん
 十方來正士 吾悉知彼願
 しーぐーごんじようどー じゆーけつとうさーぶつ
 志求嚴浄土 受決当作仏

東方偈 (往觀偈) (三)

とうぼうげ かくりよういっさいほう かくりよういっさいほう
 東方偈 覺了一切法 覺了一切法
 まんぞくしよーみようがん ひつじようにーぜーせつ
 満足諸妙願 必成如是刹
 ちーほうにーでんよう くーぎようぼーさつどう
 知法如電影 究竟菩薩道
 ぐーしよーくーどくほん じゆーけつとうさーぶつ
 具諸功德本 受決当作仏
 つうだつしよーほうしよう いっさいくうむーがー
 通達諸法性 一切空無我
 せんぐーじようぶつどー ひじようにーぜーせつ
 專求浄仏土 必成如是刹
 しよーぶつごうぼーさつ りようごんあんにようぶつ
 諸仏告菩薩 令觀安養仏
 もんぼうぎようじゆーぎよう しつとくししようじようしよー
 聞法樂受行 疾得清浄処
 しーひーごんじようこ べんそくとくじんつずう
 至彼嚴浄国 便速得神通
 ひつとーむーりようそん じゆーきーじようとうがく
 必於無量尊 受記成等覺
 ごーぶつほんがなりき もんみようよくおうじよう
 其仏本願力 聞名欲往生
 かいしつとうひーこく じーちーふーたいてん
 皆悉到彼国 自致不退転

東方偈 (往觀偈)

〔四〕

菩薩興志願 願己国無異
 普念度一切 名顯達十方
 奉事億如来 飛化徧諸刹
 恭敬歡喜去 還到安養国
 若人無善本 不得聞此經
 清淨有戒者 乃獲聞正法
 曾更見世尊 則能信此事
 謙敬聞奉行 踊躍大歡喜
 憍慢弊懈怠 難以信此法
 宿世見諸仏 樂聽如是教
 声聞或菩薩 莫能究聖心
 譬如從生盲 欲行開導人

東方偈 (往觀偈)

〔五〕

如来智慧海 深広無崖底
 二乗非所測 唯仏独明了
 仮使一切人 具足皆得道
 淨慧知本空 億劫思仏智
 窮力極講説 尽寿猶不知
 仏慧無辺際 如是致清淨
 寿命甚難得 仏世亦難値
 人有信慧難 若聞精進求
 聞法能不忘 見敬得大慶
 則我善親友 是故当発意
 設満世界火 必過要聞法
 会当成仏道 広度生死流